

カメラで橋梁を多面撮影

ジビル調査設計が新システム開発

点検から補修設計、施工計画まで

NETIISを取得、特許も申請中



マルチカメラシステム＝同社倉庫

ジビル調査設計(福井市大願寺2丁目5番18号)中島正夫代表取締役(橋梁の点検を、一層効率よく進める、新しいシステムを開発した。すでにNETIISの登録技術となり、また特許も申請中という。

今開発においては、特に小型橋梁の保守・管理に威力を発揮する、マルチカメラシステム(MCS)が、多面的に撮影し、高精度の3Dデータを作成する。橋梁点検から、補修設計、さらには施

工計画にまで、メンテナンス全体に活用可能と提案している。MCSは、令和2・3年度の国土交通省建設技術研究開発助成制度を受けた。同社では、大型橋梁むけの点検ロボット「視る・診る」とともに、今後は大小あわせて、生産性の向上に貢献したい考え。

橋梁点検・補修設計・施工計画までのプロセス比較



メンテナンスの生産性向上へ



minamide@zivil.co.jp(技術担当・南出氏)
nishikawa@zivil.co.jp(営業担当・西川氏)

DXで若者に魅力
メンテナンスの重要性は益々高いが、地味な世界で、若者が敬遠する理由でもある。今開発はDX(デジタルトランスフォーメーション)を取り込み、若者にも大きな魅力を秘める。南出重克企画開発室長と、西川明広取締役営業部長が強調。